

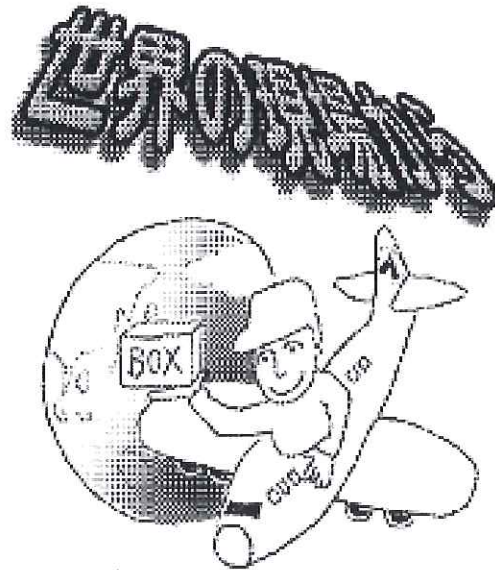
北歐は世界トップクラスの給与レベルで一人当たりのGDPも高い、一方で労働時間は短いことで知られています。ノルウェー・中堅段ボール工場の製函ラインを取材しました。

訪れた工場は首都オスロから車で約1時間半の小さな町、もともと首都でさえ人口60万と小さいだけに、工場周辺は民家も少なく森が広がっていました。

一つ目のびっくりは段原紙がパーシパルプ。豊かな森林資源から再生紙より老木を計画的に伐採しパルプへ。新たに植林することで森の循環、CO2排出抑制をという意識が浸透していました。興味はやっぱりフレキソダイカッターライン。前回の当コラムで

機械の騒音を取り上げましたが、やはり80デシベル以下にすることを目指し音源となる部分は遮蔽、また現場の空気もなるべく汚さないようダイカッター周辺に発生する紙粉、細か

### ノルウェーの製函現場から



### 第8回

いカスはタクトで吸い上げます。

また、給紙部分にも省人化を図っています。オペレーターさんも当たり前のように女性活躍。でもヘルメットを被っていないの

で大丈夫かな。人が頭をぶつけそうなどころはクッション材を巻き、落下することの無いように高所にモノを置かないことを徹底することで無帽だそうです。

10月の北歐は日本の初冬の体感温度でした。工場内は適度な温もりを感じる暖房でして、工場長に謝意を告げて「世界一快適な工場ですが、ぜひ設備にお力添えをお願いしますね」と伝えると、



「機械設備は高くなるね。でも、我々は世界で最も人件費が高い、だから動き易い、ストレスフリーの環境にしないと生産性は高められない」とのこと。

この訪問をきっかけに私たちは、実際にこの現場の床に敷き詰められていた「疲労軽減マット」を輸入販売することになりました。日本の現場の皆さんに「快適をお土産にしたくて」。

質問・問合せは有功社シフトー貿易Ⅷ03-3949-9930へ。次回掲載予定は4月7日号。